

|||||
 紹 介
 |||||

九州歯科大学附属病院研修歯科医宿泊研修の実施内容と検証

——平成 20 年度から平成 27 年度までの 8 年間のまとめ——

鬼塚千絵¹⁾ 永松 浩¹⁾ 鯨 吉夫²⁾ 木尾哲朗¹⁾

抄録 九州歯科大学では、研修歯科医を対象とした合宿形式の研修プログラムを平成 20 年度にはじめて実施した。合宿の目的は、指導歯科医と研修歯科医、研修歯科医同士のコミュニケーションの充実、連携およびチームワーク、社会人としての常識を身につけることである。本報告の目的は、平成 20 年度から平成 27 年度までの 8 年間にわたる研修歯科医を対象とした宿泊研修の教育効果について、参加した研修歯科医からのアンケート調査結果をもとに、実施内容の検討を行い研修合宿の効果を検証することである。アンケート調査では 8 年間で 177 名から回答を得た。合宿に参加して良かったと答えた研修歯科医は初年度の平成 20 年度では 80% 以下であったが、平成 21~24 年度、平成 26~27 年度は 100% であった。これらのアンケート結果を踏まえて、合宿のプログラムの改善を行ってきた。共同作業であるカレー作りを例にあげると、初年度は 2 日目に設定していたが、次年度から 1 日目に変更したことにより、高評価を得ることができた。研修合宿の教育効果として、合宿前に比べて合宿後で、診療科内で話ができる人数が増える傾向がみられた。

キーワード 研修歯科医、研修プログラム、研修合宿、教育効果、アンケート調査

緒 言

九州歯科大学では、平成 20 年度から九州歯科大学附属病院歯科医師臨床研修プログラムの 1 つとして、総合診療科の研修歯科医を中心とする参加希望者を対象とした研修合宿を実施している。総合診療科では他大学出身の研修歯科医が毎年研修しており、研修歯科医同士や指導歯科医とのコミュニケーション不足と思われる事例が認められたため、研修合宿を実施することとした。

この合宿の目的は、コミュニケーション能力の向上を目指し、研修歯科医同士および指導歯科医との連携を深め、チームワーク、社会人としてのコモンセンスを身につけることである。合宿は研修開始直後の 4 月に実施しており、その内容は、他己紹介、高齢者疑似体験、チームスポーツ、コミュニケーションセッション、ボランティア活動等である。

大学の新生を対象にした集団宿泊研修についての概要およびその教育効果についての報告は散見されるが¹⁻⁴⁾、研修歯科医を対象とした宿泊研修の報告はみられ

ない。

本報告の目的は、研修歯科医を対象に実施した研修合宿の平成 20 年度から平成 27 年度までの概要とプログラムの変遷を紹介するとともに、研修合宿に参加した研修歯科医からのアンケート調査を分析することにより、研修合宿の教育効果を検証することである。

研修合宿概要

1. 計画立案

研修歯科医の研修導入プログラムの一環として、どのように研修合宿を実施するのかを検討した結果、本プログラムの目的として「合宿研修によりコミュニケーション能力の向上を目指す」、「研修歯科医の連携を深め、チームワークの意義を学ぶ」、「時間厳守、報告・連絡・相談（ホウ・レン・ソウ）など社会人としてのスキルを身につける」の 3 点を掲げた。実施時期は 4 月とした。

2. 研修内容

1) 実施時期

平成 20 年度から平成 27 年度の実施時期について表 1 に示す。

2) 開催場所

「自然学習村 源じいの森」(福岡県田川郡赤村赤

¹⁾九州歯科大学口腔機能学講座総合診療学分野

²⁾九州歯科大学共通基盤教育部門

平成 29 年 8 月 14 日受付

平成 29 年 10 月 23 日受理